

# シラバス(介護職員初任者研修)

## こころとからだのしくみと生活支援技術

- |    |  |
|----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"><li>○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。</li><li>○安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。</li><li>○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</li><li>○基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。</li></ul> |
|----|--|

### 指導の視点及び展開例

- 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
- サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供するうえで不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- 例えば、「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。
- さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。
- 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な事例からの気づきを促す。
- 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。
- ICFや法的根拠に基づく介護についてグループワークを行い理解を深める。
- 人の記憶のメカニズムを支援に結び付けて考えることをグループワークにて理解する。
- 人体の構造を理解し、演習にてボディメカニクスを体験することにより理解を深める
- 支援を行うにおいて生活歴を知ることの重要性をグループワークにて理解する。
- 家庭内で多い事故についてグループワークにて防止方法等を検討する。
- 実技演習にて着脱介助の理解を深める。
- 実技演習にて移乗・移動介助の理解を深める。
- 実技演習にて食事介助の理解を深める。
- 実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める。
- 実技演習にて排泄の方法等の理解を深める。
- 実技演習にてベッドメイキングや体位変換の理解を深める。
- 尊厳ある「死」についてグループワークにて考え、介護職の役割の理解を深める。
- 個別援助計画の作成演習にて介護過程の展開の理解を深める。
- グループワークにて事例に基づき討議をし、実技演習にて理解を深める。

### 修了時の評価ポイント

- ①主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ②要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説できる。
- ③生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ④人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。
- ⑤人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。
- ⑥家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ⑦利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ⑧装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ⑨移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説できる。  
移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑩食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙できる。  
食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑪入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙できる。  
入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑫排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。  
排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑬睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。  
体位変換の意味と関連する用具の基本的使用方法や、機能などを概説できる。  
体位変換に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑭睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑮ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

### 内 容

#### ア 基本知識の学習

- ①介護の基本的な考え方  
・理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護
- ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解

- ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい
- ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響
- ・からだの状態がこころに与える影響
- ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解
  - ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの活用
  - ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
  - ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ・緊急時の対応
- イ 生活支援技術の学習
- ④生活と家事
  - ◎家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援
    - ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観
- ⑤快適な居住環境整備と介護
  - ◎快適な居住環境に関する基礎知識
    - ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー
  - ◎高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
    - ・住宅改修 ・福祉用具貸与
- ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎整容に関する基礎知識、整容の支援技術
    - ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果
- ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎移動・移乗に関する基礎知識、用具とその活用方法、移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と利用者、介護者にとって負担の少ない支援方法、移動と社会参加の留意点と支援
    - ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・持っている能力の活用・自立支援
    - ・重心・重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法
    - ・移動介助(車いす・歩行器・杖等)
- ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎食事と社会参加の留意点と支援や基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法
    - ・食事の意義 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢
    - ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備 ・食事に関する福祉用具の活用と介助方法
    - ・服薬介助 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防
- ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎入浴、清潔保持に関連した基礎知識、入浴用具と整容用具の活用方法
    - 入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法
      - ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭 ・足浴・手浴・洗髪
      - ・陰部清浄(臥床状態での方法) ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法
- ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎排泄に関する基礎知識や排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法
    - ・排泄とは ・身体面(生理面)での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・排泄障害が日常生活に及ぼす影響
    - ・便秘の予防 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつ使用と弊害
    - ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連
    - ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法
- ⑪睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
  - ◎睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法
    - ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備 ・安楽な姿勢 ・褥瘡予防
- ⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護
  - ◎終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援
    - ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程 ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度
    - ・多職種間の情報共有の必要性
- ウ 生活支援技術演習
- ⑬介護過程の基礎的理解
  - ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ
- ⑭総合生活支援技術演習(事例による展開)
  - ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題
  - ・講義事例: 高齢(80歳) 要支援3、認知症
  - ・演習事例: 1 高齢(84歳) 要支援2、認知症(帰宅願望/無気力)
  - 2 高齢(73歳) 要支援2、右片麻痺、糖尿病、独居

#### 使用する備品

- |      |           |         |
|------|-----------|---------|
| ・ベット | ・歩行器      | ・介護用食器等 |
| ・車椅子 | ・ポータブルトイレ | ・テレビ    |
| ・杖   | ・尿器       | ・DVDデッキ |

